

地域から 日本を変える

VOL.43

茨城県十王町「十王ダム」は夜間のライトアップをして、
観光客を誘致する。

宮嶋康彦文・写真

ドキュメント◎地域から日本を変える

4

道なき時代の改革請負人

●この混迷の時代に切り込むべく、いち早くコンピュータネットに注目し
松下電器の社内改革に腕を振るってきた、ひとりの経営コンサルタントがいる。

インタビュー◎現代を問う⑦

9

糸川英夫 明るい21世紀

●齢83にして、凡人には思いつかない壮大なプランを語る糸川博士。
「世紀末思想」なども止めて、超楽観的な21世紀論を楽しもう。

OVERSEAS◎海外レポート

14

地球にやさしい日本になるには

●ドイツとデンマークの環境保護とゴミ処理問題への対応を見るべく実施した
スタディーツアー。日本は環境先進国から一体何を学ぶべきなのか。

SPECIAL ISSUE

16

韓国の選挙に日本の政治を考えた

●テレビ討論、候補者自らが出演するコマーシャル、ボランティアの自転車部隊。
韓国の選挙には、最低投票率を更新する日本にはない熱気があった。

REPORT

20

転換期を迎えた中国の外資導入政策

●進出企業側の論理から受け入れ側の論理へ――。
中国の外資導入政策は、「選別導入」へ段階的に移行しようとしている。

ちにかネットワーク

23

- ――障害を持つ人たちの自立をめざして
- ――多様化するボランティア活動

「地域から日本を変える」1995.10.1(通巻43号)

編集人・甲斐信好 発行人・岡田邦彦

発行所・財団法人 松下政経塾

〒253 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5-25 ☎0467[85]5813

[編集部]〒604 京都市中京区間之町通御池下ル綿屋町烏丸エルビル5F

☎075[212]3648

印刷所・日本写真印刷株式会社

デザイン・土屋みつほ

©1995 財団法人 松下政経塾

本誌掲載の記事、写真などの無断複写、転写を禁じます

明るい21世紀

インタビュー

現代を問う

7

糸川英夫

先生のことは、戦闘機「隼」の設計者であることはもちろん、日本の宇宙開発の草分けでもあり、また『逆転の発想』という著書や60歳を過ぎてバレーを始められたことなどで、以前からテレビや新聞で拝見しておりました。また最近では、大変精力的に何冊も本を出されています。それで今日は、これらの本の中で先生が述べている「ベドウィンの法則」「山岳地帯の利用」などについてうかがいたいと思います。

が、よろしければその前に、今年6月に東京からこちら(信州)へ移られた、その理由を教えてください。

糸川 私がいま最も関心を抱いていることが3点あります。これは、いま言われたベドウィンの法則などに関係することですが、またそのまま私がここに移った理由でもあります。

まず1つが21世紀の人類です。20世紀は残すところあと5年という時点になりましたが、非常に悲観的な空気に覆われて終末論が流行っています。でも21世紀は違う世紀になると思います。

20世紀まで宇宙というのは生命のな

いものと、生命のあるものの2つからできている集合体だと捉えられていました。そして、生命のないものについては「ビッグバン」が出て、宇宙の始まりを見事に科学的に説明しました。これはほんとうに素晴らしい法則です。

ビッグバン理論は、恐らく20世紀までの人類の歴史の中で一番特筆すべき大法則です。宇宙の始まりが判つて、宇宙の根源が判つて、仕組みが判つたわけですから。それをうまく生活の中で利用したのが20世紀文化で、ジ・エンドがマルチメディアです。

しかしあと半分の生命のあるもの、つまり生命体については全く判っていない。いつ、どうやって生命が生まれたのかというビッグバンが判らない。ですから21世紀は、生命体についてのビッグバンが出るという仮説を私は持っています。

生命については多くの謎があります。中でも同じ有機物なのにタンパク質になって生きるものと、無生物になつて生きないものとに分かれるというのは、生命の根源に関わる大きな謎です。この問題は、これまで科学が手を触れないことになっていました。

しかし、今日、たとえばトンネル顕微鏡などというものができて、以前より小さい細かいものが判るようになってきました。トンネル顕微鏡は一例ですが、計測技術にこの種のイノベーションがあると、生命の根本的なところが判るかもしれません。

いわゆるビッグバンが出た背景に

21世紀は精神的な問題を客観的に議論する方法論が確立します

は、物理学のいろいろな計測器ができて、様々なことが判るようになったことがあります。同じように、トンネル顕微鏡のようなものができてきたことによつて、生命の謎が判る可能性が出てきました。普通、物は光を反射しますからその下にあるものは見ることができません。でも、この顕微鏡は波を出して、それが物体を通過し、物体の向こうを見ることができ、写真が撮れるのです。ただ、これはできてから10年も経っていませんから、まだ世界で10台ぐらいしか動いていないと思いますが……。

それから幸せか幸せじゃないか、幸福か不幸かというのは、いまのところ客観的なメジャーがありませんから主観の問題です。「私は幸せです」と言えば、その人は幸せです。だから同じことが人によつて幸せだったり不幸だったりする。つまり共通のメジャーがない。それが21世紀になるとメジャーが1つか2つできると思います。

ですから21世紀はいまよりも人間の精神、心とか道徳とかモラルとか友情、そういう世界がはつきり判ると私は思っています。そうなると、たとえばお金は儲けたけれど幸せになつたのかというような問題が解決できて、お金を儲けることと幸せになるということは両方可能になる。また、不幸になるというところが、いまよりもはつきりと客観性を持つて言えるようになる。これは、21世紀の非常に大きな人類の進歩だと思います。つまり精神的な問題を

A 鹿児島宇宙空間観測所

通称「内之浦発射場」と呼ばれており、観測ロケットや科学衛星の打ち上げを行い、それらの追跡やデータの取得をする実験場。鹿児島県内之浦町の海を見下ろす山の上にあり、糸川博士が東大生産技術研究所の教授として、ロケット開発や人工衛星の打ち上げに取り組んでいた当時、建設に携わった。

B ベドウィンの法則

ある民族、ある種族が、意図せぬライフスタイルの大変動に襲われると、必ずその集団のリーダーシップとモラルが低下し、社会全体に犯罪やアルコール・麻薬中毒などが増えてゆくという法則。遊牧民を定住させようと進められた「遊牧民定住化」プロジェクトの失敗から導き出された糸川博士の理論。この法則は、近代文明と接触する世界中の少数民族に当てはまると言う。

客観的に議論する方法論が確立する。

それが1点です。

第2点は、日本が抱えている大きな問題に土地本位制というものがあありますが、これを解決するということです。日本の平地部の面積はアメリカの2%、50分の1です。人口は日本が1億2千万で、アメリカが2億5千万ですから1対2。面積と合わせて考えると25対1の差が開きます。これはもう圧倒的な差です。ですから、いろいろな

問題のベースになってしまふ。

私が小学校から中学校にかけてのころ、日本は平地部の面積を増やそうと行って北支・満州を取りに行きました。これが第2次世界大戦です。学校では、満州の奥地で日本が使える平地部の面積と、それによって日本民族が1人当たり何平米の土地を使えるかという計算ばかりやらされてました。この感覚はいまだに変わっていません。戦争に失敗して取れなかったから、いまは借りて出ていつている。それを空洞化現象と呼んでいる。

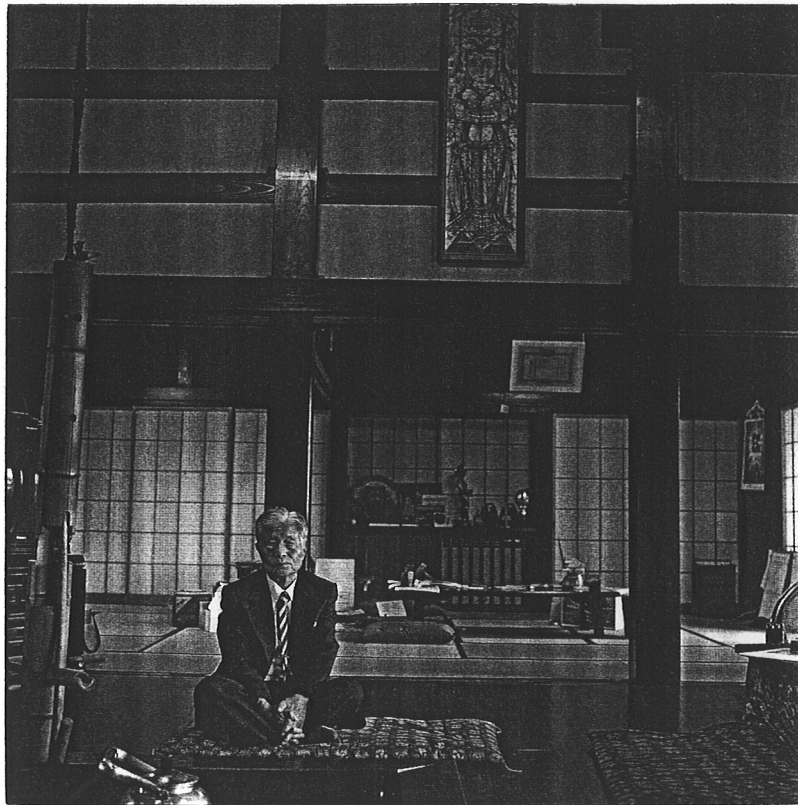
日本民族のこの問題を解決するには、平地部の面積を増やすより方法がない。だから山がたくさんあれば、山を利用すればいいというのが私の主張です。それを一番最初に実践したのが鹿児島宇宙空間観測所です。皆さん絶対にできないと言いましたが、山の中に宇宙ロケットの発射場ができました。ですから、まだここら辺にもいっぱい山があるから切り開けばいいんです。この辺りだって何もなかったんです。この家もなかったし、道もなかった。とにかく何もなかった。それを私は自分で木を伐って、山を切り開いて音楽ホールをつくった。それができてようやく道路が通った。

だから、私が山へ住めと言っているのは想像で言っているのではないんです。自分で実際にやってみた。そのうえで山を使ったらいいと言っているのです。

しかし、物理的な問題を解決したか

日本人には民族誕生以来、初めて島国根性がなくなります

ら、さあ使おうと言ってもうまくいかない。これまで日本人が山に住まなかったのには理由があるからです。それは何世代にも渡って培われた「山は嫌だ」という心理的な障害です。結局は心理学なんです。だから、まず「なぜ日本人は山を嫌うのか」、その心理を突き止めなければならぬ。それから山をどう利用するのかを考えて、山に住む人間と、山でないと住む人間のコミュニケーションをどうつくるのかを考えなければならぬ。それには自分が山の中に住んでなければ話にな



らない。というのでここへ越してきたんです。これは20年計画です。3番目は、日本全体で面積効率を上げるにはどうすればいいかということ。北海道と本州は青函トンネルで繋がります。九州と本州は関門トンネルで繋がりました。四国と本州にも橋が架かった。日本列島は全部繋がった。日本列島はもう4つの島ではない。しかしアジア大陸とは繋がっていない。それで今度は朝鮮半島と日本の間に、岐、対馬、済州島と3つ島があるので、私はそれを橋で結んで、海底トンネル

よその民族がほかの民族をコントロールしてやらせようとするのはダメです

をつくって、ドーバー海峡のように繋ごうと思っているんです。20年前からのプランです。これができると日本全体の面積効率はうんと上がる。マイカーでロンドンまで行けます。

—— 原理的にはそうですね。

糸川 そうなれば、心理的にも経済的にも変わります。これが通ると、日本人には民族誕生以来、初めて島国根性がなくなります。そうすると韓国と日本のわだかまりが解消する。私はそれをちよつと期待しています。これから何十年かかっても、日本列島と朝鮮半島を結ぶべきです。

これは可能です。建設費用はたとえば、世界銀行から借りられると思います。世銀はこれまで様々な事業にお金を出して、アスワン・ハイ・ダムなどを手掛けましたが回収できていない。でもこれは絶対儲かる。世界最大の金持ちの日本国とヨーロッパを結ぶのですから。人間東西行き来が当たり前だから、こうなるとほんとうに忙しいですよ。ドーバー海峡よりもはるかに効果が大きいです。これが3つ目です。以上が、私がここでやろうと考えている3つのプロジェクトです。それで私の答えも3つなんです。欲張っている(笑)。

—— 話を「ベドウィンの法則」に移します。この法則は、これからの地球社会の運営にとってほんとうに重要な法則だと思いますが、少し説明したいだけです。